

本校の目指す教育(ビジョン) ~地域との協働を通じたデジタルイノベーション創出人材の育成~

注)「目標達成のための方策」記載項目と右隣の「評価指標」は直接リンクさせていないが、なるべく近い内容としている

教育目標	重点目標	目標達成のための方策	評価指標と肯定的評価の割合	自己評価と改善策	学校運営協議会の評価(意見)	
普通 (2)(1)教育 社地育 会域な 人と担 びしう にて、 情報 規報・ 範・ビ ジネ スや ネス に倫 理に 関す る身 を専 門に 将来 の教 育を 施し た感 性豊 かな スト で心 豊か な育 成(専 門性 の育 成)を 育成 する (協働 する 能力)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい授業態度の育成 前年度割合[92% 91% 86%] ← ・家庭学習の習慣づけ 前年度割合[42% 63% 17%] ← ・基礎学力向上講座や試験前特別講座等の支援の充実 前年度割合[57% 77% 49%] ← ・日常的な挨拶や、身だしなみを整える指導の徹底と継続的な声掛け 前年度割合[88% 81% 60%] ← ・部活動加入の奨励 前年度割合[87% 83% 63%] ← ・JS(情報サポーター)制度による上級生の責任感醸成と実践力の育成 前年度割合[54% 81% 49%] ← ・関係機関との連携による的確な進路情報の提供と、進路相談、面接・小論文作成指導等の充実 前年度割合[69% 77% 51%] ← ・防災(避難)、交通安全、情報モラル等に関する指導の充実 前年度割合[78% 81% 51%] ← 	①生徒は、授業に真面目に取り組んでいる。 [生徒: 93% 保護者: 93% 教職員: 94%] ②生徒は、家庭学習に真面目に取り組んでいる。 [生徒: 53% 保護者: 67% 教職員: 43%] ③生徒は、個別学習アプリのスタディサブリ(朝活動等で実施)に真面目に取り組んでいる。 [生徒: 23% 保護者: 72% 教職員: 40%] ④生徒は、ビジネスマナー(身だしなみや挨拶、提出期限厳守等)を身につけている。 [生徒: 89% 保護者: 88% 教職員: 64%] ⑤生徒は、部活動に積極的に取り組んでいる。 [生徒: 90% 保護者: 81% 教職員: 58%] ⑥生徒は、生徒会やJS制度等を通じて、「生徒達がある程度自主的に学校行事等を運営している」と感じている [生徒: 69% 保護者: 86% 教職員: 60%] ⑦生徒は、提供された進路に関する情報を参考に、目標に向けた取り組みを進めている。 [生徒: 72% 保護者: 84% 教職員: 71%] ⑧生徒は、災害や交通事故等から適切に身を守る方法や情報モラルを身につけている。 [生徒: 79% 保護者: 89% 教職員: 59%]	①、②の結果より、生徒の「授業や家庭学習への取り組み状況」は改善傾向にあると考えられる。 一方③の結果から、スタディサブリへの取り組み状況は相当に悪くなったと判断できる。朝礼終了後の時間を「朝活動」として、読書とスタディサブリの選択制としたことが要因の一つと考えられる。 また⑥の結果から、「生徒達がある程度自主的に学校行事を運営している」という認識が高まり、今後生徒の主体性向上につながるという可能性を感じ取れる。 今後、スタディサブリの利用頻度向上対策と併せ、生徒個々の理解度や個性に合わせた学びの実現に向けて、各教科において一層工夫を重ねていく。	○個別学習アプリを導入しても、学校で実施する時間を特別に準備しなければ、自発的に取り組むことが少ないという実態がわかった。大きな課題である。 ○全体として生徒たちが授業や部活動にしっかり取り組んでいる様子がうかがえるので、家庭学習はやるにこしたことはないが、その時間のかけ方が人によって違っても良いと思う。 ○ICT機器やアプリを導入するとそれを使うことが目的化してしまいがちなので、気を付けてほしい。 ○去年は②の教職員の割合が17%で非常に心配したが、今年は43%とかなり改善して安心した。	
	前年度割合[71% 79% 53%] ←			[生徒: 71% 保護者: 83% 教職員: 61%]	Aの肯定的評価平均	
	重点目標	目標達成のための方策	評価指標と肯定的評価の割合	自己評価と改善策	学校運営協議会の評価(意見)	
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活アンケートや授業評価アンケート、魅力化アンケート等の実施と、PDCAサイクルによる学校活動の改善 前年度割合[77% 75% 91%] ← ・スクールカウンセラーや学校医による教育相談の充実 前年度割合[77% 86% 69%] ← ・教職員による日常的な声掛けと、個人面談による相談の充実 前年度割合[76% 89% 71%] ← ・各教職員の「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた資質向上(教材研究の充実、公開授業実施等) 前年度割合[84% 84% 71%] ← ・校内及び地域、企業等との協働的な学習活動の機会の充実 前年度割合[90% 84% 83%] ← 	⑨生徒は、ロングホームルーム等での人権学習で、自らのあり方を見つめ直す機会を得ている。 [生徒: 85% 保護者: 80% 教職員: 97%] ⑩生徒は、周囲の人に思いやりを持って接しており、周囲の人からも自分が認められていると実感している。 [生徒: 78% 保護者: 95% 教職員: 83%] ⑪生徒は、悩みや困りごとに関して相談できる人がいて、相談する機会もある。 [生徒: 80% 保護者: 85% 教職員: 88%] ⑫生徒は、地域探究基礎(1年生)、地域探究応用(2年生)、課題研究(3年生)等の探究的な学習により、地域理解が進み、地域課題について考える機会を得ている。 [生徒: 92% 保護者: 90% 教職員: 82%] ⑬生徒は、情報ITフェアに関する活動を有意義なものにできている。 [生徒: 92% 保護者: 93% 教職員: 86%]	⑨、⑩、⑪の結果から、「生徒自身が自らのあり方を見直す機会を得ている」、「周囲の人に思いやりを持って接している」、「悩みを相談できる人や機会がある」と答えた生徒の割合が、若干でも前年度より増加したことは、前向きに評価できる。 一方⑫、⑬の結果より、保護者からは、「本校の探究的な学習への取り組み」や「情報ITフェアに関する活動」について前年度より高く評価されている。 今後も家庭の理解、協力を得ながら、他者と円滑な人間関係を構築する能力や協働する能力を育成していく。	○人に相談できるということ自体が、一生にわたって必要な大事な力なので、⑨、⑩、⑪の生徒の割合が増加しているのは高く評価できる。 ○ITフェアでは、毎年新しい試みにチャレンジしていて素晴らしい。さらに進化させていくと、生徒の自己評価もまた上がっていくと考える。 ○担任のきめ細かな面談のほか、養護教諭、教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、学校医等による多様な相談活動が展開されていることがわかった。	
	前年度割合[81% 84% 77%] ←			[生徒: 85% 保護者: 89% 教職員: 87%]		
	重点目標	目標達成のための方策	評価指標と肯定的評価の割合	自己評価と改善策	学校運営協議会の評価(意見)	
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器及び本校独自コンテンツ、アプリケーションソフトの積極的な活用 前年度割合[84% 77% 74%] ← ・授業及び学校行事、地域連携活動における、習得した知識・技術の積極的な活用 前年度割合[90% 84% 74%] ← 	⑭生徒は、先生がICT機器等を活用して、授業内容が理解しやすいよう工夫していると感じている。 [生徒: 91% 保護者: 88% 教職員: 88%] ⑮生徒は、一人一台端末(Chromebook)を授業やその他の活動に有効に活用している。 [生徒: 91% 保護者: 89% 教職員: 83%]	大変高評価で、「デジタルテクノロジーを活用し新たな価値を創造する能力の育成」に向けて順調に取り組んでいる。 生徒の主体性向上と併せて今後も取り組みを推し進めていく。	○情報科学高校は、令和2年度に国の研究指定を受け、早くから一人一台端末を導入していた。現在は導入初期よりも頻繁に、教員にも生徒にも有効に使われている様子がわかり、大変良かった。	
	前年度割合[87% 80% 74%] ←			[生徒: 91% 保護者: 89% 教職員: 86%]	Cの肯定的評価平均	
	前年度割合[79% 81% 68%] ←			[生徒: 82% 保護者: 87% 教職員: 78%]	肯定的評価(項目A・B・C)の総平均	